

加工食品分野における物流標準化アクションプラン 第2回フォローアップ会
議事概要

1. 日時

令和4年9月14日（木）15：00～16：00

2. 場所

オンライン（Teams）

3. 出席委員

根本敏則委員（座長）、川村隆夫委員、小谷光司委員、小松崎義則委員、成瀬慎一郎委員、深井雅裕委員、藤原丈二委員、二村真理子委員、堀尾仁委員、前田賢司委員、溝内順一委員、明貝裕之委員、武田裕紀委員、渡邊顕太郎委員、中野剛志委員、勘場庸資委員、日野祥英委員、平澤崇裕委員

4. 議事概要

【木村審議官 冒頭挨拶】

- 我が国の物流は、様々な課題を抱えており、特にトラックドライバーに時間外労働の上限規制が適用される2024年度が間近に迫り、効率化は喫緊の課題。
- 国土交通省では、物流効率化に不可欠な物流の標準化実現に向けた検討を行うため、官民物流標準化懇談会やパレット標準化推進分科会を設けて集中的に議論を進めており、また、加工食品をはじめ、業種分野ごとの検討も始まっている。
- 昨年の本会議では、定期的な進捗確認と、標準化の取組の輪を広げる必要性について指摘をいただいた。本日は、他の業種分野や製・配・販連携協議会の皆様にも参加いただき、アクションプランの各項目について、昨年度以降の取組を発表・共有いただく。行政としても、関係者の連携を加速し、標準化の機運が途絶えぬよう引き続き支援してまいりたい。

【根本座長 冒頭挨拶】

- 物流標準化は、大別して業界横断と業界ごとの2つの取組がある。後者では加工食品分野がトップランナーであり、先行してゴールを目指し、他業界のモデルになってほしい。

【委員からの主な意見】

- アクションプランの各項目については、経営層や生産部門の幹部との情報の共有ができ、これから取り組んでいく。
- 伝票電子化について、公認会計士から「並行して紙伝票として出力しないのであれば、電子化してよい」との指摘があった。当社だけではなく他社でも類似の課題があるのではないか。

- 外装サイズの標準化は大きな効果がある。ぜひパレット積付けを意識した製品や外装を作っていただきたい。
- 外装表示の標準化（QRコード化）に関しても、卸のセンターに入る際の日付入力ミスも発生しているため、全てコード化されれば大変助かる。
- 納品伝票エコシステムは、数年前に実証実験に参加して以降、具体的に取り組めていないが、エコシステムとしてつながり始めていることを改めて確認できた。さらにサービス・プロバイダが参入してくる中でも、裏側でシステムがつながっていれば普及も期待できる。

- 外装の標準化について、卸のセンターへの納品車両台数が減るのはよいこと。待機時間の問題もあり、ドライバー側の納品時間や卸のセンター側の荷受け時間が短くなることはよいことである。各項目について卸の立場でもしっかりと取り組んでいきたい。

- 標準化は、物流事業者だけでなくサプライチェーンの上流から取り組むことで進む。
- 特に外装関係については、物流事業者にとっても効果が大きい。カートンの高さが変わると、自動フォークリフトでの積卸しが難しくなるため、カートンサイズの統一は自動化の促進につながる。外装表示についても、パレットへの製品の積み方が様々異なるため、現場で外装表示を確認する作業にあたり、4面や6面に同じ情報があるとより助かる。

- アクションプラン項目をプロジェクト化して、営業、マーケティング、研究所、資材等の部門から人員を出し、検討を進めている。アクションプランと連動して進めていきたい。
- 本フォローアップ会でご発表いただいた即席麺業界のアクションプランでは、軽量物が主体ということもあり、ワイド型トラックへの積付け効率に優れている12型も標準

サイズとしている。今後は本アクションプランに沿って、パレット化を進め、循環体制を整えていきたい。

- 持続可能な物流の構築に向けて、F-LINEプロジェクトやSBMプロジェクト、個社でも具体的に進めている。大きな成果があった一方で課題もある。
- サービス・プロバイダが複数出てくるのは良いことだが、運用上の課題も発生する。トラック予約受付システムに関して、受注情報が入っていないうちに予約が必要となるケースや、午前中からピンポイントの納品時間指定に変わってしまったケースなどがある。部分的な効率化が進む一方、全体のルールづくりもしなければ、全体最適にはならない。
- 冷凍食品分野で11型のパレット化を進めている中で、納品先までのパレットの連携ルールの必要性を感じる。常温分野ではレンタルパレットによる複合一貫輸送の貸出方式を使って運用できているが、冷凍食品分野では同様の仕組みがない。これらの次の課題に向けても取り組みたいが、検討に当たっても考慮いただきたい。

- 先進的な企業では、意欲的に取り組まれ、標準化が進んでいることが分かった。食品業界内で横展開が進んでいけば、かなりのボリュームになっていくのではないかと。
- 外装サイズの変更は、ハードルが高い問題だが非常に重要。積載率の低下は損失につながるため、中・長期的には外装サイズを変更して積載率を上げ、特定荷主が省エネ法の判断基準に抵触しないよう工夫もすべき。標準化とともにカーボンニュートラルも重要。

- まず動くことが重要。まず動くことで社内外含めて課題や壁が明確になる。
- 公式の会議での発表上は、きれいなストーリーになっていても、実際には一進一退を繰り返しながら、進めるほど様々な壁が出てくる。志を持って進んでいくことが重要。
- 個々の動きを共有化して、他社の動きをヒントにして皆で進んでいくことが重要。この会議に限らず、普段から各社の動きを共有化すべき。
- アナログからのシステム化が第一の関門だが、次のレベルとして業界標準を目指すべき。まずはシステム化すべきだが、しっかりと標準化を念頭に置きながら動くことが重要。

- アクションプランについて、速やかに実装につなげること、しっかりと強弱をつけて取り組むことが重要。

- 外装表示の標準化については、各社内での調整や生産ラインの改修等の課題がある。肅々と長期的に進めていくことが大切である。
- 納品伝票の電子化やパレットの標準化の方向性はよいが、例えば「トラック予約受付システム」では、システムの普及が先行し、個別ルールが広がってしまった。運用をしっかりと早く決めて、標準化に合わせた動きを取ることが後戻りをしない進め方である。
- コードの標準化については、2000年頃の議論の際には、実際には困っていないという結論になり全く進まなかった。過去の反省を生かしてしっかりと進めていただきたい。

- 他分野と比較しても加工食品分野の方が深い議論が行われている。外装についても、印字や箱の形態について、パレットへの積載を考慮しているという点は先行している。
- 標準化を図る上では、例えば電子化した際に、専用端末ではなく、スマートフォン等の世にある汎用的な媒体をの活用も視野に入れながら検討していただきたい。

- パレットの標準化に関して、耐用年数についても議論していただきたい。例えば、新しいものを導入しても、その日のうちに数年経過した古いものが返ってくる。パレットは血液のようなものであり、質の良し悪しのバランスが崩れると効果的な物流とはならない。

- 紙と電子の併存が難しいという問題提起があった。各社において参考にできる取組もあるのではないか。事務局を通して情報の共有化を進めていただきたい。
- アクションプラン策定から2年経ったが、積極的に取り組まれていることを改めて確認できた。この取組を、確実かつ広範なものにしていきたい。加工食品分野の企業はもちろん、オブザーバーとして参加している各業界との連携・協力も必要。事務局においても、関係者の間に立って連携をサポートするとともに、引き続き情報共有に努めていただきたい。

以上

(文責 事務局)